

令和7年度 在宅医療・介護連携研修(在宅チーム医療を担う多職種研修) 実施報告

報告者:都筑区福祉保健センター 高齢・障害支援課 松本

1 実施概要

① テーマ

8050 問題を考える ～ひきこもる人の苦しさにふれる

② 日時

令和7年 12 月5日(金) 19 時～21 時

③ 開催方法

ハイブリッド形式(集合+オンライン) (会場:都筑区役所 6階大会議室)

④ 内容

ひきこもり当事者の体験談を通じた、ひきこもり当事者の思いや対応時の視点・技術等を学ぶ。また、8050 問題を抱えるケースに直面した際の、職種別に自分の立場から行える対応について、グループワーク等を通して学ぶ。

○当日の流れ

講義・質疑応答:80 分、グループワーク・発表:25 分

○講師

岡本 圭太 氏

横浜市出身。20代でひきこもりの経験をされ、現在、就労相談施設にて相談員として若者支援に従事。各地の行政機関や親の会、学校等で、ひきこもりに関する講演・講師等を数多く務めている。

⑤ 参加人数・内訳

48 名 (オンライン 43 名+オンライン 5 名)

【内訳】 医師:3 名、看護師3名、薬剤師3名、リハ職4名、医療ソーシャルワーカー1名、ケアマネジャー10名、ホームヘルパー1名、地域包括支援センター職員8名、包括以外のケアプラザ職員2名、行政職員10名、その他の職種3名(ユースプラザ、在宅医療相談室、くさぶえ)



2 参加者の意見

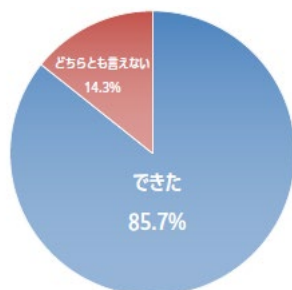
- ・ 「ひきこもりのリアル」を真に感じ知った。
- ・ 当事者の率直な思いや当時の苦しさが具体的に伝わり、今まで自分が持っていたイメージとの違いに気づくことができた。支援のあり方を見直す機会になりました。
- ・ 相談者や介護保険の担当ケースで、ひきこもりの影がちらほらということが増えている。ひきこもる側の心、

辛さを理解し、介入のきっかけなどの学びになった。

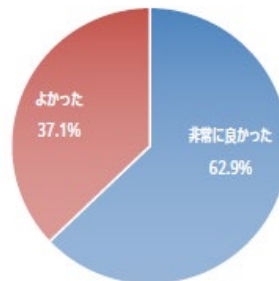
- ・ 一人の支援者だけでは支えきれないことや、医療・相談機関・地域支援がつながることで継続的な支援が可能になると理解でき、多職種連携の重要性を再認識した。

【アンケート結果 抜粋】

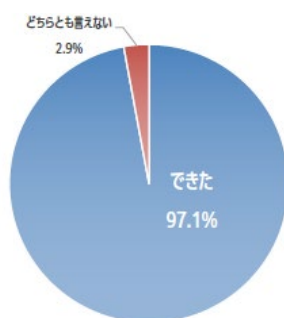
Q.研修の満足度



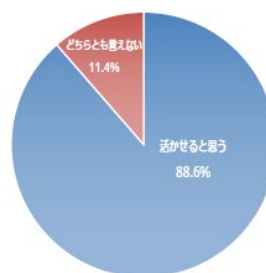
Q.ひきこもりの理解度



Q.多職種連携の必要性に関する気づき



Q.業務への活用



3 研修の成果・課題

① 成果

- ・ 8050 世帯へ支援、ひきこもる家族への支援方法に課題感が強まっている中、ひきこもり経験者から、ひきこもりの体験や生の声を具体的に聞くことで、8050 問題の事案に直面した際に各職種の立場からできる対応について学ぶ機会になった。
- ・ テーマへの関心が高く、障害や不登校の関係者からの参加申込みが例年よりも多くあった。

② 課題

- ・ 開催時期が繁忙期や感染症の時期と重なり、当日欠席者が2割程度いた。
- ・ 経験年数の長い専門職の参加者が多い一方、経験年数の短い専門職の参加が少ない。また職種により参加率の幅がある。
- ・ 職種別に研修の場が多い事に加え、多職種連携協議会での事例検討会やオンラインの集いが、多職種の学びの場・顔の見える場になっており、本研修との差別化が見えにくい。

上記課題を踏まえ、効果的な研修となるよう、テーマや対象者(ターゲット)を明確にし、それに合わせた開催時期・開催時間を含めた検討が必要。

4 次年度について

① テーマ

在宅医療から見る「地域で暮らす」ということ～意思決定支援・ACP の実践に向けて～(詳細未定)

② 実施時期

7月～8月頃(詳細未定)